

三二九一番

み吉野よしのの 真木まき立つ山やまに 青あをく生おふる 山やま菅すがの根ね
 の ねもころに 我あが思おもふ君きみは 大君おほきみの 遣まけの
 まにまに 鄙離ひなざかる 国治くにをさめにと 群鳥むらとりの 朝立あさだち
 去いなば 後おくれたる 我あれか恋こひむな 旅たびなれば 君きみ
 か悞しのはむ 言いはむすべ せむすべ知しらず 延はふつ
 たの 行ゆきの 別わかれのあまた 惜をしきものかも

反歌

三二九二番

うつせみの 命いのちを長ながく ありこそと 留とまれる
 我われは 齋いはひて待またむ